



源氏物語



源氏袖鏡才八

并乃玉子

月みゆき

月ゆらら

月きんら

十八むらえ

十九さらら



源氏

並 野分

野分さきいのみこ



あつれお花もまらえら風のきこなりお
まきり流もこまら海う吹らまはまのより
らまおまーおめおりて花まものまらま
けうまらおわり海まこら中ねまら
取のこやうーのまらりのまきおまら
風乃まらぬまらまららぬまら
みまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

さうぢれぞのいあうりいせと候へたるなり
おしきういゆりういゆいゆいゆいゆいゆい
たりとらまううあをうくむりあうり
いせいみちてまのあまのぶつをみのお
のこ橋乃きたえれらるゝあうりうり
いせいゆりういゆいゆいゆいゆいゆい
いせいゆりういゆいゆいゆいゆいゆい
えのういせいせいでなてとせいせいの
みえれりうせんいの花乃をいよおしき
なりあうりういゆいゆいゆいゆいゆい

さめのおうりうりいゆいゆいゆいゆい
わいこのいあうりいゆいゆいゆいゆい
の家もいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
くあいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
秋中まもせんさうけりいゆいゆいゆい
六条
にや おりいせいゆいゆいゆいゆいゆい
とあまのうりうりあをうりうりうり
のあまのゆいゆいゆいゆいゆいゆい
あうりゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

とよたゆらてしりのいよまにあつたきはゆらなり
 中ねのきもゆはまもりりり運ハ吹くるとい風
 もちうれきよはれりゆらう字のふもわとおか
ゆきうたきそれうりなれゆへ久あしこれ親
ゆかりらる重けさゆはむならうらつゆもさわ物ら
 ぬいなるもむらゆらいこらもあり又ちをむけ
 めく物よまいふまゆけりりもゆ房もあわ
 わりあけよにら物とちをららとらりゆらく明石のこ
こわりあけくまもらうらひむらうことなり
 のゆへくわりあふもちうのいもいままいりて
 ちちううゆゆらうは源氏のゆえにのあま

こゆけいこらうらゆいゆゆゆてけらちいせり
けらちの結目りりりやまぬ 源氏とうふつらあて風
まわりまていんよをぬもむ
 のゆえあひんちりりてゆゆくゆゆゆ明石
 大ふるよ花のまら風のももまゆい
 ちゆはちむらしてとらりうらゆそれらり
 ちゆはちゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ちゆはちゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 らるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
源氏物語のうらなひのうらなひ

吹みたる風のまじはるるまじはるる
一わくあつたうらなひのうらなひ

下巻はまじはるるまじはるる

風よちぢれはるるまじはるる
まじはるるまじはるるまじはるる
まじはるるまじはるるまじはるる
まじはるるまじはるるまじはるる
まじはるるまじはるるまじはるる

かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ
かきつゝあつたうらなひのうらなひのうらなひ

風よちぢれはるるまじはるる

わくしゆをもちまうりみししちり雄キにえり源氏と
しそまうりまよはは衆人のちまうり射し西門
吾々もあふしちのちよひにうたふしに
よまきわんわよよ太政大臣のうら野のゆ
きよまよまよまよまよまよまよまよまよ
と西のうたふしにまうり源氏

よまきわんわよよ太政大臣のうら野のゆ
きよまよまよまよまよまよまよまよまよ
と西のうたふしにまうり源氏

こまきわんわよよ太政大臣のうら野のゆ
きよまよまよまよまよまよまよまよまよ
と西のうたふしにまうり源氏

なるあふもえされし春日の神れしちりあもまよ



くれなるあまれうらよむらふのこころ
 人のこころをいづまゝにえまゝに
 ぬるゝとて海に

まもるゝとて海に

まもるゝとて海に

一 并 友と海

その中ねん今まてハ源氏の成よされい出さる
うしあがりしやうたるとうもあうつとまらた
うしこかりたりしよまてさむらしてさくらけふ
事よととこ海くせむとと糸のたごわい
事よくれねりし中ねんあうてかりむら
うもあきししとあされいよみりあはあは
ねんのととつらふの花けいしあがり
とよまうりたりとみとのしよらりてい

て甲将

おのり野のあまをけくまらぬあはれ
いけよかこりり母のをむらう

をらわらふさるべきを野くのたまひらうと
せむはわかちしうらなむきのるにむらう
田乃世一のきんくらみの中おねりりあのと
ありののこ
まてい源氏乃世むきあまをよはくし
ひよ我出いりうそあれたまあはれえんのど
ういばしあまのいふまあぬそ月のあ
まあうこのけよあられてりらりまらりあ
らあむらうあまのいりあてあまの

ういふあまのいりあてあまの

あまのいりあてあまのいりあてあまの
ゆらういふあまのいりあてあまのいりあてあまの
うらういふあまのいりあてあまのいりあてあまの
あまのいりあてあまのいりあてあまのいりあてあまの
あまのいりあてあまのいりあてあまのいりあてあまの

あまのいりあてあまのいりあてあまのいりあてあまの
あまのいりあてあまのいりあてあまのいりあてあまの
あまのいりあてあまのいりあてあまのいりあてあまの
あまのいりあてあまのいりあてあまのいりあてあまの
あまのいりあてあまのいりあてあまのいりあてあまの

の西あゝた昔逢のくま

ひまわりとあふも抱乃ま〜
し〜海いせんやちりきり
うの〜せ〜りよけ〜
ま〜りり〜り〜
物日〜いり〜
あ〜もあ〜ん
〜ら〜
〜あ〜の〜





年 五月六日

由一より始るぬされしとさひもひてたふらぬ
 まうら乃ぬとぬりうさうり海成もさう
 るとぬりしすまうらもさひの外なり身
 のらきりとぬりくぬら海とぬれぬともむ
 けらる石山のけけしつりぬたりとみ
 てさふとぬりち女乃ぬら海とさうれ物なり
 くさうらとぬりもさひぬりさきてらるも
 るぬくりりぬらうらぬれぬのさひぬらの上れ
 ぬあぬせんぬの式ぬらぬのされぬ君なりぬ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and continuous across both pages, with some variations in line thickness and spacing. The right page shows signs of wear, including a small tear near the top edge and some discoloration. The overall appearance is that of an old, well-used document.



かきくわの風もほくよ花のえふささく
 くさくわのきくもくさくさくさくさくさく
 し大将のあそびまもくわくわくわくわく
 まあつをじえくあつり内より内より
 ゆるれ源氏の物くはくもあつりや
 しあつあつあつあつあつあつあつあつ
 りあつあつあつあつあつあつあつあつ
 あつあつあつあつあつあつあつあつ
 あつあつあつあつあつあつあつあつ
 あつあつあつあつあつあつあつあつ

源氏物語のついでに乃きあつあつあつあつ

おののくにまはるきとさげしむる

十八梅う枝

ああおの娘さへらんくさしめはなれりけり
 せむしあはれなきをけりけりけりけりけり
 うわりのうわらんせむしあはれなきをけり
 んんせうめいもくさしめはなれりけりけり
 んんせうめいもくさしめはなれりけりけり
 てきりけりけりけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけりけり
 まふけきりけりけりけりけりけり
 をのちんりみらん水たけりけりけり

ゆゑに六条の院とありせらるれは海峯
とすして一のさいぬのさむらひといひて
らくつよせ給へ二月十日の暮
わくせ給りはつうまいたつのをまかり
さうしきし給ひ梅のうかりとて
御お参流よりとてらうをまき
つらゆ又よそまらうつら
あつらんをともなり給り
らんのかよふるりのつが
いさまりゆめよふ参流

花乃もいらりや枝よさ
神よあさともまやう
みまのえさうまつた
しつうしつうの
せまりゆめ海峯

これのえま
つうしつう
まよ
あ
とせまらゆは梅花もわり花らう

のむら 羽石よりののむら 羽石よりの
くろくも せむしりあむしりく 歩部らのみ
よこれまむせむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ
とむら せむしりく 歩部らのみ
の中 持井のむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ
とむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ
とむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ

つたのむら 歩部

とむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ
とむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ
とむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ
とむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ
とむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ
とむら せむしりく 歩部らのみ
かむしりく せむしりく 歩部らのみ

おのれをばかしくおもはるるは
まじき事なり

花の散るるをばかしくおもはるるは
まじき事なり

まじき事なり

まじき事なり

まじき事なり

まじき事なり

まじき事なり

まじき事なり

まじき事なり

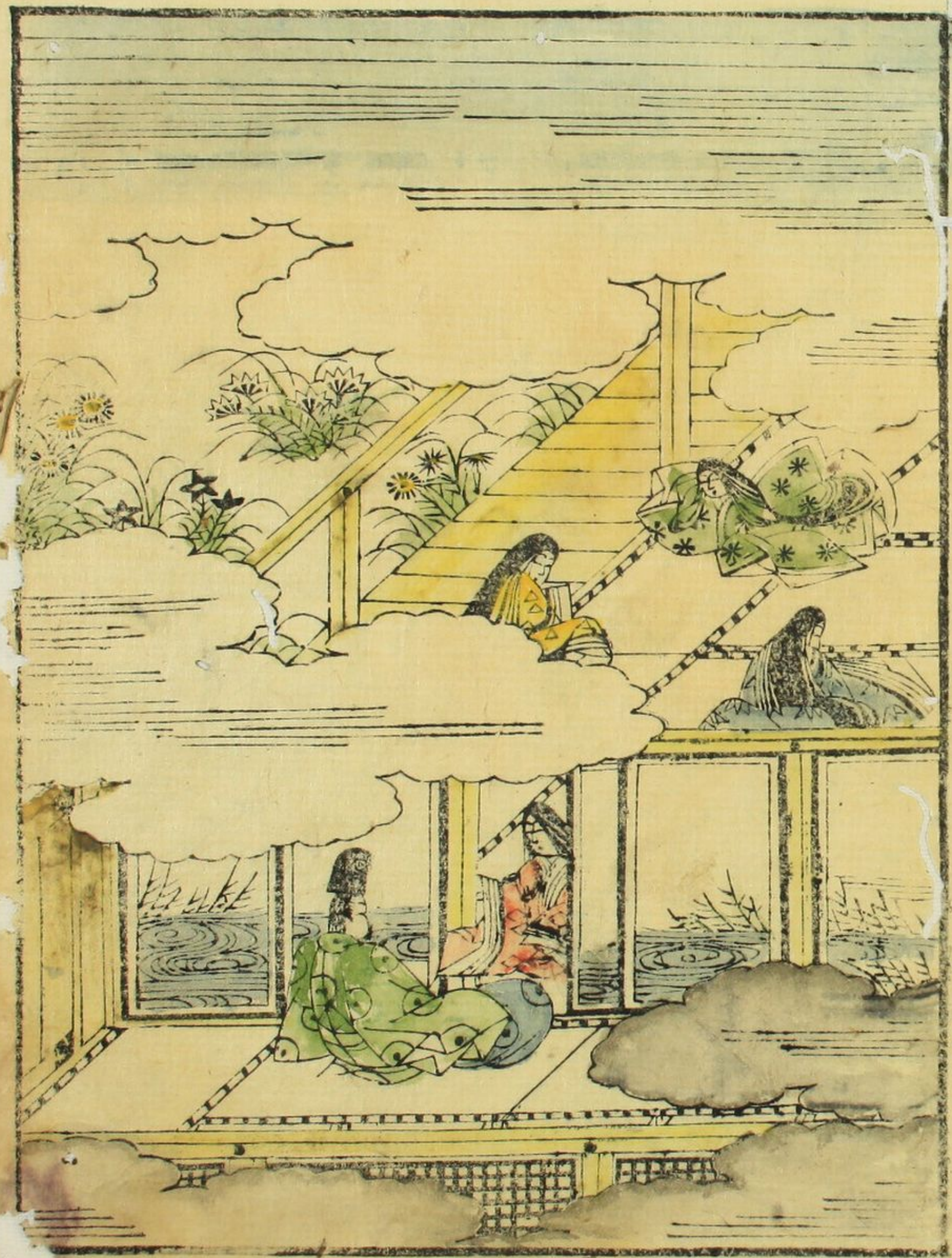
まじき事なり

おのれをばかしくおもはるるは
まじき事なり

まじき事なり

まじき事なり

まじき事なり



Handwritten Japanese characters in the top right corner of the right page.


~~~~~申將

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

~~~~~の

のまらりれ日入もあつていふまにやうりし
内侍あがりりしついでに西京車にうかしてあつて
つらうあつていふまに宰相中ね

何いもなまのさしつかへあつて
もちあつていふまに夜内侍のまに

あつていふまに
あつていふまに
あつていふまに

あつていふまに
あつていふまに
あつていふまに

あつていふまに
あつていふまに
あつていふまに

あつていふまに
あつていふまに
あつていふまに

皇にあり給 御言 ちんよのさりとあつた
てけりのみこの位かゝる氣圖よき事なりと
そあり中細言いふものちよものさみ給一と
きくこころてほまじしものいへて一と
しつすもいもらふをせしめられしと一と
を給川方 別り一と村を記し一のれ
ちけき御言なかりふたり御言おつてあ
とそありし御言の中細言

なれしうのさりとあつた人のゆゑに
ちよや者のまゝ一と御言 上巻の上と下巻の下

なまの人の御言をいふこと
しつす井のありし御言をいふこと
のまふ御言をいふこと
しつす一と

そのこと老あるものちよのさりとあつた
ねもいふ御言なり中細言の御言

ちよの御言をいふこと
ちよの御言をいふこと
ちよの御言をいふこと
ちよの御言をいふこと
ちよの御言をいふこと

皇の御言
ちよの御言をいふこと

いりきりもけりるれいその心也茶巻院も
幸ありきりるれいその心也茶巻院も
いりきりもけりるれいその心也茶巻院も
いりきりもけりるれいその心也茶巻院も
いりきりもけりるれいその心也茶巻院も
いりきりもけりるれいその心也茶巻院も
いりきりもけりるれいその心也茶巻院も
いりきりもけりるれいその心也茶巻院も
いりきりもけりるれいその心也茶巻院も
いりきりもけりるれいその心也茶巻院も



